

向陽

〒780-8014 高知市塩屋崎町1丁目1-10 TEL(0888)33-4394 FAX(0888)33-7373 <http://www.inforyoma.or.jp/t>



ガーナ便り

浅井 和子（35回生）

大使に就任し、当地ガーナに着任して、はや一年余りが過ぎました。この間、この国の実情を知ろう、援助（ODA）の現場を知ろうとの思いから、ほぼ全国を回ったり、また、ガーナの一般市民を日本びいきにしようと開催した「ガーナでよさこい」では、土佐高同窓生の皆様の多大なるご協力のお陰で大成功を収めたりと、瞬く間でした。



さて、ガーナは赤道より少し北、ギニア湾に面する西アフリカの中央に位置し、面積は日本の約三分の二の広さです。人口約二千万人、首都アクラには二百万人が住んでいます。気候は年中夏ですが、六月から九月までは雨季で、今は朝晩涼しく、日中も窓を開けていればクーラーは要りません。全人口の約五〇%がキリスト教、三〇%がイスラム教、その他伝統宗教もあります。国民の大半は農民で、GDPは一人当たり約三七〇ドル。日本人の約百分の一です。首都アクラは車の洪水で、立派な道路や大きな建物もありますが、地方に行くと、泥の壁と藁葺きの家で、電気も水道もなく、朝や夕方には井戸から汲み上げたばかりの飲み水の入った大きな金だらいを頭に載せて歩く子ども達によく出会います。

ガーナは十五世紀にポルトガルが到来後、オランダ、イギリスが奴隷貿易や金の採掘のため植民地としま

した。一九五七年、エンクルマのものとサハラ砂漠以南のアフリカでは最初に独立を果たし、それまでの黄金海岸はガーナ共和国となりました。エンクルマは世界一と言われる人造湖を造ってダムを建設し、産業を興して、アフリカの希望の星と言われました。一九七〇年位まではガーナは経済成長へまっしぐらに進んでいましたが、次々と起こったクーデターにより、経済はすっかり疲弊し、今に至っています。

しかし、一九九二年に現行の憲法が成立し、それまでの軍事制が共和制となり、二〇〇〇年十二月の選挙ではそれまでの野党だったクフォー大統領の現政権が民主裏に誕生しました。ガーナは、未だに紛争の絶えないアフリカにあって、民主政治が確立し、治安も近隣諸国に比べるとはるかに良好です。同じ西アフリカにある大国ナイジェリアからガーナに入った旅行者は、ガーナに入った途端、ホッとするそうです。

ガーナ人は、そうです、人柄が温厚です。ガーナ人は宵越しの金を持たないと言われていますが、これは、

お金が入るとすぐ仲間に分け与えるからだそうです。先ほどのナイジェリア人なら、さしずめ他の人に見つからないように何処かにそっと隠すのでしょうか。また、ガーナ人は底抜けに明るい。そして、音楽が鳴ると自然に体が動いて踊ってしまうのです。自由な「よさこい」踊りはこうして、ガーナ人に大受けしました。毎年開催することで、より大勢のガーナ人が日本人と一緒に「よさこい」を踊れば、日本ファンになること間違いなしです。

昨年は土佐高同窓生を中心に二十一名が日本から駆けつけて下さり、ガーナ在住日本人とガーナ人約六百名で、大いに盛り上がりました。今年十一月十五日、龍馬誕生日に行います。またどうぞ、大勢の方々のガーナまでのお越しをお待ちしております。

アフリカは中国、インド、中近東を含むアジアとほぼ同面積あり、人口七億七千万人、国際社会にとってはおもはや無視できない存在です。いや、むしろ、アフリカの問題解決なくして世界の平和はない、と言われ、

(3)



G8のサミットでも必ずアフリカの問題は取り上げられるようになりました。今、丁度アフリカ諸国を訪問中のプシユ大統領に言わせれば、世界の最後の市場とのこと、まさに、二十一世紀はアフリカの世紀なのです。

その様なアフリカの中で、ガーナは、一歩先を進んでおり、特に現政権は「ビジネスの黄金時代」を唱え、急ピッチで経済成長しようとしています。民主政治が確立し、優秀な人材が多い国（指導者層およびその子弟はほぼ全員イギリス、アメリカに留学。アナン国連事務総長もガーナ人）です。で、十年、二十年後には、きつと発展した国になっているだろうと、多くの人が期待しています。

この八月末より九月八日迄、ガーナの名門高校、セント・ピーターズ校の生徒二十名が土佐高生との交流を求めて高知へ行きます。大学進学率は一〇％に満たないこの国において、セント・ピーターズの生徒の九〇％が大学進学するのですから、同校の生徒は将来、丁度十年、二十年後の躍進している国のリーダー達で



しょう。

さて、今の土佐高生の十年、二十年後はどうでしょう。躍動するアフリカ、ますますグローバル化する世界において、日本人も日本人としてのアイデンティティを持って、世界を視野にいれた活動をせねば、アジアの片隅で忘れられた存在になりかねません。この度のガーナ高校生の土佐高訪問を絶好の機会と捉えて、両高校生の見識を広めるべく、大いに交流していただきたいと思います。学校、ご父兄および同窓生の方々には、大変なご負担をおかけすると思いますが、これも日本、ガーナの将来のリーダーを育成するためと任じて、お願いしつつ筆を置かせて頂きます。

(二〇〇三年七月十三日)

8/31からの交流の様子
は、本校HPで紹介
しています。

昭和十九年四月、十三歳のY少年は土佐中学二年への編入を申し込んだ。年齢的には普通の進学で、飛び級でも留年でもない。彼は三月まで東京の名の通った都立中学にいたが、戦争が激しくなるにつれ空襲の危険のます東京を逃れて、高知へ引越してきた。いわゆる縁故疎開である。Yの父兄にしてみれば、格下ではない学校からの転校であるから、問題なく受け入れてくれると思っているであろうが、土佐中学はこのような形の転校希望をふたつ返事で受けた前例はない。普通なら、門前払いを食わせるところであるが、時局柄止むを得ないと見て、取り敢えず試験をすることにした。

試験の科目は英数国の三科目とし、英語は吉村教諭、数学は大嶋教頭、国語は西野教諭がそれぞれ担当し、簡単な筆記試験と面接をすることになった。数学は一次方程式で解ける問題を出した。きれいに解いていた。面接で聞いてみても、マイナスの数の理解にやや難があるものの、中学二年の平均的学力は持っていた。国語は書取りと読本の朗読であった。まずまず問題はなかった。英語はその時土佐中の一年生が使っていたテキストを見せて読ませ、日本語に訳させた。Y少年の英語力は全く駄目

だった。読み方も分からないし、意味を知らない単語も多く、ほとんど訳すことが出来なかった。

三人の先生が集まって可否の判定

寄稿 ノ ン フ ィ ク シ ョ ン

大嶋光次校長

山中 和正 (24回生)



て来れない可能性もあります」と主張した。じつと聞いていた大嶋は短く、しかしハッキリと言った。「よし、受け入れよう。国の方針に従っ

の打合せを行なった。西野は、「国語については問題ありません」と言ったが、吉村は、「英語のレベルはかなり劣ります。このままではついで

て故郷（くに）に帰ってきた子供を見捨てるわけにいかない」吉村にも異論はなかった。大嶋の担当した数学は合格のようであった。

翌年四月、青木校長の退任にともなう大嶋は校長に昇格したが、戦局はますます急迫を告げ、閣議決定により、授業を中止せざるを得なかった。生徒は勤労動員として、工場や陣地構築、農家の応援などに狩り出されていた。どんな状況になろうとも、学生は勉強をしなければならぬという信念を持つ大嶋にとって、授業が出来ないのはひどく辛いことであった。

その年の七月四日未明、高知市はB29の大編隊の空襲を受け、廃墟となった。土佐中の校舎も焼け落ちたが、広い校庭の反対側にあった校長公舎は奇跡的に焼け残った。約一ヵ月半後に終戦を迎えると、大嶋はこの校長公舎を拠点にし、私生活をなげうって、直ちに復興活動を開始した。校長公舎は職員室となった。大嶋の信念に従えば、真っ先にやらなければならぬことは授業の再開であった。八月一日には、高岡郡尾川村の施設を借りて、一、二年生の疎開授業を始めた。合宿である。八月二十六日には、海南中学（今の小津高校）と城東中学（今の追手前高校）の教室を借りて、三、四年生の授業を開始した。九月には竹村茂雄氏が自宅を開放してくれたので、焼け出

冒頭に出てくるＹ少年は実は筆者自身である。ここに書いたことは事実とは思いうが、伝聞が含まれていて完全には検証されていない。そこで「プロジェクトX」風のノンフィクションにまとめてみた。最初のエピソードから、大嶋校長の風格と人情を汲み取っていたできれば幸いである。

このときの土佐中学は、まさに建
学以来の危機であつた。それを大嶋
光次という中興の祖の出現で乗り切
つた。大嶋校長がいなければ、今日
の土佐高校はなかつた。いま、土佐
高は第二の危機に直面しようとして
いるといえる。二〇二〇年までには
九〇%以上の確率で起こりうると予
想される南海大地震に備えるため、
校舎を改築する必要があるからであ
る。現校長、池上武雄氏はこの難関
に向かつて立ち上がってくれた。同
窓生は皆で、彼をバックアップし
池上武雄を第二の大嶋光次にしよう
ではないか。

（この拙文は、二八回生の同人誌「くろしお」のために書いたものです。同誌のご同意を得て、ほんの少し加筆して、「向陽」に寄稿します。）

[illegible]

<http://www.inforyoma.or.jp/tosaobog/>

The screenshot shows a web browser window with the address bar displaying 'http://www.j-school.org.cn/'. The page content is in Chinese. On the left, there is a navigation menu with links like 'Home', 'About Us', 'Contact Us', etc. The main content area features a large photograph of a group of people, likely students and staff, standing in front of a building. To the right of the photo, there is a section titled 'Topics' with a list of items. The page is titled '中日友好学校' (Japan-China Friendship School) at the top.



関東支部 <http://www.2u.biglobe.ne.jp/~tsuruwa/kantosibu.htm>
 関西支部 <http://www.tosa-ko.org/kansai/>
 東海支部 <http://www.sun-inet.or.jp/~bunmura/>



※住所等の変更はこちらから



※関連ホームページや
メーリングリストへ

二〇〇三年度

総会議事報告

【総会次第】

- 一、校歌斉唱
- 二、会長挨拶
- 三、学校近況報告
- 四、物故会員に黙祷
- 五、報告事項
- 六、審議事項



▽二〇〇二年度収支決算承認の件

▽二〇〇三年度事業計画案ならびに収支予算案承認の件

総会開催について

従来は開催場所確保の問題もあり、事前に開催日時・場所を決定しホテルで開催してきましたが来年度は母校との関わりを持ち、ホームカミングデー的な要素を含め、恩師による授業など、案を練り、懐かしい母校での開催を検討したい。日・時等学校当局との検討を進める中、役員会に諮りたいと考えている。

会員名簿等データベース化の実施

長年の懸案である本件は昨年度、本部・各支部とで検討された方向性に基づき本年度ソフト費用を予算計上しており、セキュリティには万全を期する中で、効率的かつ有効活用をしたいと思っている。

土佐中・高等学校校舎新築に対する協力

百年委員会でも言及されていること、現行耐震強度の問題点を踏まえた南海大地震への備え等から校舎改築問題が検討されており、振興会においても協力金の設置が検討されて

いる。土佐高の教育目標、教育方針を踏まえた、学校が目指す新しい教育内容に相応しい教育設備は必要であり、同窓会としても意見を具申する中で積極的に協力をしたと考えている。

▽土佐中・高等学校同窓会会則一部変更の件

同窓会をとりまく種々な案件について検討を加え具現化していく為に

土佐中・高等学校同窓会会則一部変更の件

同窓会組織の活性化をはかる為、現行会則の主旨を尊重する中で、実体に合わせるとともに、会則の一部変更をするものです。

変更前	変更後
第9条 役員は、次の各号により決定する 会長、副会長、幹事長、副幹事長、会計、及び会計監査は、総会で正会員の中から選出する。 代表幹事は、第27回以前にあっては各回の互選により、第28回以降にあっては各ホームの幹事の互選により、母校にあっては在職正会員の互選により選出する。 幹事は、各ホームの互選により選出する。 名誉会長は、母校の校長をもって充てる。 顧問は、会長が委嘱する。	第9条 役員は、次の各号により決定する 会長、副会長、幹事長、副幹事長、会計、及び会計監査は、総会で正会員の中から選出する。 (変更なし) 代表幹事及び幹事は会長が以下に従って委嘱する。 ①母校の代表幹事は在職正会員の互選による選出に基づき委嘱する。 ②第27回以前の代表幹事は、各回の互選による選出に基づき、また第28回以降の代表幹事は各ホームの幹事の互選による選出に基づき委嘱する。 ③幹事は、各ホームの幹事の互選に基づき委嘱をする。 ④任期終了までに、前①②③の互選による選出がない場合には、会長は代表幹事及び幹事を指名できるものとする。 名誉会長は、母校の校長をもって充てる。 (変更なし) 顧問は、会長が委嘱する。(変更なし)

▽役員選任の件

本年度総会をもって役員任期は終了となり改選を要します。また池上会長より校長職に専念したいとの申し出もありました。六月二日、六月二七日の役員会、代表役員会において満場一致で推薦された方を候補者として提案し、満場一致で承認可決されました。

同窓生の皆様と共に「協力一致誓いして」同窓会のさらなる発展を



新校舎の建築へ向けて、
具体的な取り組みを
会員の皆様とともに進めたい。

同窓会会長 宮地 貫一

会長のご指名を頂きました宮地でございます。

これからの土佐中・高等学校にとって最大の事業である新校舎の建築問題に具体的に取り組まなければならないこの時期に会長職をお引き受けることになりました。

その任の重さを感じておりますが、皆様のご期待に応えられる様、私としても精一杯努力をして参るつもりでございます。そのためにも、会員の皆様のご協力が何よりも必要でございます。

(7) 土佐中・高等学校校歌の三番にありますように「協力一致誓いして」というところが目下の同窓会にとっては、一番大事なキーワードではないかと考えております。

新校舎の建築問題については、具体的な案を一日も早く固めていくよう努力致したいと考えておりますので、よろしくお願い致します。

◆宮地会長プロフィール

宮地貫一会長は21回生、東京大学卒業後文部省に入省。入省後ずっと教育にたずさわられ、事務次官で退官後も放送大学理事長や世界大学総長協会会長などを歴任。現在は衛星通信教育振興協会の顧問として、また本県においては、学校法人高知工科大の副理事長や、土佐中・高等学校の理事として、あるいは、統合後の高知大学創設準備委員会委員長等、まさに時代をリードする教育界の重鎮であります。
(北村)

■新役員決まる。

八月二日に開催された総会にて同窓会本部の役員が改選され、新会長に宮地貫一さん(21回)をはじめ、以下の新役員の皆様が選ばれました。



会 長	宮地 貫一 (21回) 新任
副会長	溝渕 真清 (32回) 再任
副会長	岡内 紀雄 (34回) 新任
副会長	横田 整二 (40回) 再任
副会長	川崎 康正 (42回) 再任
副会長	北村恵美子 (47回) 新任
幹事長	安岡 範悦 (39回) 再任
副幹事長	松山 豊 (46回) 新任
副幹事長	西山 彰一 (48回) 再任
副幹事長	小村 彰 (49回) 在校幹事新任
副幹事長	宮地 貴嗣 (61回) 再任
会 計	千頭 裕 (58回) 再任
会計監査	森木 将雄 (32回) 再任
会計監査	田中 章夫 (40回) 再任



学校近況ご報告

学校長 池上 武雄

盛夏の候、同窓生の皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は母校の為に何かと変わらぬご支援を賜わり誠に有難く御礼申し上げます。

昨年四月、学校長就任以来はや一カ年が経過いたしました。森本・浜田両教頭先生をはじめ教職員の皆さん、振興会、同窓会の多くの方々に支えられて無我夢中で過ごして参りました。しかしながらこの一年を振り返ってみますと唯々我が身の未熟さを痛感するのみで数々のご迷惑をお掛けしていることを申し訳なく反省いたしております。

学校長就任に際し掲げました「より活力ある文武両道の達成を目指す」につきましては、本年度の大学入試結果にも、インターハイ出場にも胸を張れる結果からは遠く、捲土重来を期しておるところです。

大学入試の好成果には、土佐の中高一貫教育の特色を発揮して、中学三年生から大学受験の意識付けと、大学センター試験での好成績が必須との反省に立つて今後一層の奮起を

促したいと考えております。

百年委員会からの提案をうけて、今学期から新しいカリキュラムを組んでおります。

一つは、土曜日以外に月曜日を四時間授業の「半ドン」といたしました。新学習指導要領の導入や労働基準法の特例措置の終了に伴うもので、特に月曜日に設定した理由は、月曜日が振替休日になることが多く、授業時間減少の影響が小さいためです。月曜日の午後は、補習や講習会などでの活用を考えております。

二つ目は、読書好きの生徒を育てる主旨で、「朝十分間読書」を始めました。勿論先生もいたします。二回にわたる生徒、先生へのアンケート調査では、「良い、集中できる、自分にプラスになる」等の項目で一段と評価は高まり、いずれの回答でも好評であることは喜ばしい限りです。

校務分掌では、従来の一〇部を七部に統合しましたほかに、広報担当を新設いたしました。

小村彰先生ほか五名が、学校ホームページの更新、校内LANによる情報交換、振興会・同窓会との連携、入試対策、各種情報の収集・蓄積などを担当いたしておりますのでご協力をお願いいたします。

多くの同窓生のご協力をいただき、週刊朝日六月十三日号「シリーズ・進学の源流を訪ねて」日本の名門高校二〇〇（私立中・高校編）で本校特集記事が掲載されました。一二〇先の諸先輩、関係先から協賛広告を賜り、大いに本校の面目を保つことが出来ました。暖かいご芳志に心から感謝申し上げます。

なお抜刷保存版も調達いたしましたので、今後本校のPR誌として活用して参るつもりです。（勿論広告入りです）

二期開始の行事として、土佐高35回生の浅井和子さんが特命全権大使を勤めておられるガーナ共和国から今夏、セント・ピーターズ高校男子生徒三十名が日本にやってきました。二週間の日本滞在のうち後半高知に来て、本校の授業に参加したり、生徒さんの家庭でのホーム・ステイや「よさこい甲子園」への参加などが予定されています。始業式での交流を含めて実りある国際交流が出来ることを期待しています。

暑さ厳しい折柄同窓生の皆様のご健勝とご多幸、ますますのご活躍を祈念申しあげ、近況報告とさせていただきます。



広報担当のめざすもの

小村 彰

新年度の機構改革の一環として、広報担当部署が新設され、二人の教頭を中心に、小村・山口・松村・千頭・島内・手島の六名で、広報に関わる業務を担当していくことになりました。新設の部署で、手探りの状態ですが、少しでも本校教育の発展に役立てるよう努力してまいりますので、ご理解・ご協力をお願いいたします。

【具体的活動とその目標】

①学校ホームページの更新
・緊急連絡(休校・行事の実施など)における活用

今年五月三十一日に台風四号のため臨時休校になりました。事前に連絡していたこともあって、電話による学校への問い合わせは前年度に比べ大きく減少し、かわりにホームページへのアクセス数が過去最高を記録しました。
・クラブや学校行事のニュース
上のページは、現在ホームページに掲載中のニュースの一覧です。右側をクリックすると詳しい内容を確認することが出来ます。授業その他の空き時間に作成するため、まだまだ内容は不十分ですが、すこしずつ充実させていきたいと考えています。

・イベント・クラブなどの紹介
運動会や向陽祭の過去の記録、各クラブの紹介を載せています。クラブの記載の更新が遅れ気味ですが、各クラブの協力をいただいで、できるだけ新しい情報にしていきたいと思っています。

・本校入試関係情報
学校紹介から、入試要項や学校説明会について記載しています。当然のことですが、外部からのアクセスが一番多いところです。また、問い合わせも多くるところでもあります。できるだけわかりやすく、詳しい情報を提供することを心がけています。

以上のような情報をできるだけ頻繁に更新しながら、たくさんの方にアクセスしていただけるホームページを目指します。

②校内LANによる情報交換
・連絡事項のオンライン化
・学年・分掌での取り組みのオンライン化

会議や文書処理をできるだけ効率化して、生徒指導時間を確保するとともに、教職員の経験や考え方の交流を活発化して、指導の改善を図る一助となればと考えています。

③振興会・同窓会との連携
連携の窓口として、学校との意志疎通が緊密に行われるよう活動しています。保護者・卒業生のご意見・ご要望をお聞きし、教職員への周知徹底を図るとともに、学校としての考えをお伝えして、よりよい学校づくりにむけて、相互に協力していきことが出来る関係を築いていきたいと考えています。

④入試関係
・教務部と連携を保ちながら、学校・塾などへの説明・PRをこれまで以上に充実させていきます。

⑤各種情報の収集・蓄積
・卒業生も含め、広く本校に関わる情報を収集し、効果的に活用できるように蓄積していきます。

以上のような活動を通して、本校が目指すもの・実践していることができるだけ多くの方に理解していただくとともに、情報の収集・交換を通して、本校教育のより一層の発展を図っていききたいと考えています。同窓会の皆様にも、この趣旨をご理解の上、私どもと積極的にご連絡を取っていただけますよう、お願い申し上げます。

平成十五年度 大学入試のまとめ

大 学	現	浪	計	進学	大 学	現	浪	計	進学	大 学	現	浪	計	進学
国 立					公 立					明 治				
北 海 道	2		2	2	高 崎 経 済		1	1	1	明 治 学 院	5	6	11	3
旭 川 医 科		1	1	1	東 京 都 立	2	1	3	3	明 治 学 院	2	4	6	2
東 北 北		2	2	2	都 留 文 科	2		2		明 治 薬 科	1		1	1
筑 波		1	1	1	大 阪 市 立		1	1	1	立 教	1	5	6	2
群 馬	1		1	1	大 阪 府 立	2	2	4	3	早 稲 田	19	21	40	18
埼 玉	1		1	1	姫 路 工 業		1	1		麻 布	1	1	2	
千 葉	1		1	1	奈 良 県 医		1	1	1	愛 知 学 院		3	3	1
東 京	2		2	2	高 知 女 子	3	1	4	4	南 山		1	1	
東 京 学 芸	3		3	3	計	9	8	17	13	名 城	1	1	2	1
東 京 農 工	1	1	2	2	昨 年	12	6	18	10	京 都 産 業	3	1	4	4
東 京 工 業	1		1	1	私 立					京 都 薬 科		1	1	
東 京 水 産	1		1	1	酪 農 学 園	2	1	3		同 志 社	15	9	24	3
お 茶 の 水		1	1	1	自 治 医 科	2		2	2	立 命 館	13	15	28	8
電 気 通 信	1		1		青 山 学 院		4	4	1	竜 谷	1	4	5	1
横 浜 国 立	4		4	2	学 習 院	1		1	1	大 阪 芸 術	2		2	2
名 古 屋	1	1	2	2	北 里	3	6	9	2	大 阪 薬 科	1	3	4	
名 古 屋 工		1	1		杏 林		1	1	1	関 西	5	8	13	2
京 都	2	7	9	9	慶 応 義 塾	8	11	19	9	近 畿	3	5	8	4
大 阪	15	3	18	18	國 学 院		1	1	1	摂 南		3	3	
大 阪 教 育		1	1	1	駒 澤	1	1	2	2	関 西 学 院	11	6	17	6
神 戸	3	1	4	4	芝 浦 工 業	1	1	2	1	神 戸 学 院	1		1	1
奈 良 女 子	1		1	1	上 智	5	5	10	2	神 戸 女 学	1		1	1
島 根		1	1	1	昭 和	1		1	1	神 戸 薬 科		2	2	
岡 山	5	4	9	9	成 城	1	1	2	1	奈 良	2	2	4	2
広 島	3		3	3	専 修	2		2	1	川 崎 医 科		2	2	2
山 口	1	1	2	2	中 央	7	8	15	8	徳 島 文 理	1	3	4	2
徳 島	3	1	4	3	津 田 塾	3		3	2	松 山	1		1	1
香 川	5	2	7	7	東 海		1	1	1	高 知 工 科	9	2	11	7
愛 媛	4		4	3	東 京 医 科		2	2	1	福 岡		3	3	1
高 知	10	4	14	8	東 京 経 済	2		2	2	そ の 他	18	24	42	12
高 知 医 科	7	5	12	11	東 京 薬 科		1	1	1	計	182	209	391	144
九 州	2	1	3	3	東 京 理 科	15	12	27	5	昨 年	214	185	399	128
佐 賀		1	1	1	東 邦	1	2	3	2	短 大				
宮 崎 医 科		1	1	1	日 本	4	2	6	2	短 大	2	1	3	1
鹿 児 島	1		1	1	日 本 歯 科		1	1	1	大 学 校 専 門 学 校 等	10	3	13	10
計	81	41	122	109	法 政	5	10	15	5	総 合 計				
昨 年	102	54	156	146	武 蔵 工 業	1	3	4	2	総 合 計	284	262	546	277
										昨 年	337	247	584	292

上の表に示されているように、今春の大学入試では、国公立大学を中心に、合格数で前年をかなり下回り、合格率でも6%ダウンの66%にとどまりました。合格率ダウンの最大の要因は、センター試験の不振にあります。また、東大・京大への合格数も前年を下回り、期待に沿う結果が出せなかったことは非常に残念です。ただ、史上二位の大阪大合格数、自治医大の県内合格者を現役で独占、高知医大のAO入試での七名の合格など、個々には評価できるものもあります。私立難関の早慶上智、関関同立などでも、現役生の健闘がみられました。

以上のような今春の反省を生かしつつ、来春に向けて一層の奮起を促しているところです。とくに来春は、国公立大学の多くがセンター試験五教科七科目を採用することになって、難関校への挑戦が一層厳しさを増しています。生徒・教員一丸となってこの難関を突破すべく、努力を重ねていく覚悟です。

平成15年度 運動部の戦績～高校県体・中学市体

高校県体

弓道	男子個人 優勝 男子団体 準優勝
自転車	個人ポイントレース 優勝
テニス	男子団体 準優勝 男子個人複 ベスト4 女子団体 準優勝
バドミントン	男子団体 準優勝 男子個人複 3位
登山	男子 準優勝 6月の四国大会では優勝しました
ハンドボール	男子 準優勝
剣道	男子団体 3位
バレーボール	男子 3位
陸上競技	男子やり投げ 2位 男子200m・400m 3位 男子1600mリレー 4位 女子400mリレー 6位
水泳(男子)	800mリレー 優勝 200m平泳ぎ 200m個人メドレー 1500m自由形 優勝 400mリレー 400mメドレーリレー 2位 200m個人メドレー 400m自由形 2位 50m自由形 100m自由形 100m平泳ぎ 3位

文武両道

中学市体

空手道	男子団体 優勝 男子個人組手 優勝
バドミントン	男子団体 優勝 男子個人複 優勝・3位 女子団体 3位 女子個人複 3位
テニス	女子団体 優勝
剣道	男子団体 3位
バスケットボール	男子 準優勝
柔道	男子個人60キロ級 準優勝

高校県体では、もう一步のところ
で優勝を逃す競技が多く、残念な結
果に終わりました。中学市体では、
上記の競技以外にも、県体出場権を
得たクラブが多く、県体での活躍、
さらに四国・全国への進出に期待が
かかります。



男子 土佐4年ぶり制す

登山

(今治西は2年連続3度目の優勝)
年西岡が担当した読図は満点だった。

県体負けたが：

▽男子 ①土佐(高村、西岡、野村、高尾) 87・5点
(行動32、生活23・6、知識26・9、態度5・0) ②学芸(佐々木、勝間、西本、横川) 高瀬、池田86・0点 ③高知84・0点
(土佐は4年ぶり3度目の優勝)
▽女子 ①今治西89・4点 ②普通寺一89・2点 ③松山東83・6点 ④高知西82・9点

悔しさを晴らした。

メンバー4人は天気図、地点確認、救急、行動記録―担当―に―から練り直した。県体より難しくなるというチエックポイントもクリア。2

全員が中学から登山部。激しい雨の悪コンディションも余裕をもって対応。学芸を抑えた。一昔前には2強時代があったという土佐と学芸。土佐OBでもある岡松監督は「西を加え、これからの高いレベルで争えたら」。

追悼 籠尾良雄先生

昨年11月、母校野球部元監督の籠尾良雄先生がお亡くなりになりました。先生のご功績は同窓の皆様には申すまでもありませんが、夏の甲子園が近づくと、またその面影が浮かんでまいります。今回の「向陽」発刊に際し、長年先生と親交の厚かった共同通信の万代記者から、先生への熱い思いを綴った特別寄稿をいただきました。先生のお人柄を偲びつつ、教えを受け継ぐ母校野球部への応援のエールとして掲載させていただきます。

万代 隆

籠尾良雄先生が逝かれて八カ月余りが過ぎた。あの悲しみの時は晩秋で、あれから冬が終り春も通り過ぎた。七月初旬、南国市の高台で永遠の眠りにつかれています先生のお墓に参らせてもらった。ここでは土佐高野球部員の掛け声も、打球音も聞こえない。やっと野球から解き放たれたの深い眠り……。遠くに海が見えた。土佐高を率いた三〇年間の監督生活。「全力疾走」で全国のファンの心を洗い、学業との並立は高校野球の理想の姿として注目され続けた。慢性的な部員不足という難題を抱え、それでも甲子園への挑戦が繰り返された。先生の三〇年は苦闘の歳月で、その命のしずくが二〇一人の教え子を育てた。

全力疾走を含めた土佐高の清新さが全国に認知されたのは昭和四十一

ていた。送り出してからもその将来を案じ、一人ひとりの生きざまを見据えておられた。教え子も先生を忘れない。この密接な関係は相互信頼で支え合い、これこそが生涯教育の源であることを教えられた。

野球と学業だけではない。それだけが感性を磨いて「美しいものを見て美しいと感じる心。感動して泣ける心を持ちなさい」と話されていたと聞く。甲子園を「母の懐」と評され、絶えず心の中に描き続けた甲子園を「郷里」と位置付けられたのも当然のような気がする。先生の中にこそ「純白の心」があつて、それを選手が一緒になって甲子園に運んできたから、見る人の心を揺り動かす野球になったのだろう。

今でこそ「ピンチはチャンスなり」という言葉が流行語のようだが、先生も長期にわたるピンチに見舞われた。昭和五十一年の選抜大会出場を最後に甲子園への道は十三年間も閉ざされた。高知商、高知学園と並んだ高知の3強からも抜け落ちた苦難の日々……。進学校の宿命とも言える部員不足に泣かされた。あるときは「甲子園」の三文字のみ、ぎつしり並んだ年賀状が届き、その熱き思いにこちらが泣きだした。石

鉦山登拝で自らの求めるものを見出

そうとされたのも、このころだった。そして平成元年の選抜大会出場。十四年ぶりの甲子園は土佐高を待ち焦がれていた。初戦での敗退ではあっても大きな歓声がナインを包み、讃えた。それは十三年間の努力に対してのものではなかったか。人間の真の価値は苦境に立ったときの対処に見えるものだが、この低迷期を耐え希望を失わなかった先生の強さと底力を見せつけられた思いがした。

春夏通算で7回。準優勝、ベスト4各1回、ベスト8入り2回。これが監督歴三十年の甲子園での戦績になる。有望な選手を自由に入部させ、環境の整った監督生活ならもつと甲子園への道は近かっただろう。こんな話題になると「そうじゃない。土佐高だからこそ自分の思い通りの野球ができた。この道に間違いはなかった」と決然として話されるのだった。

私は昨年十一月二十六日の告別式でお別れの言葉を述べさせていた。そのとき「まだサヨナラの言葉が生まれてきません」と語ったが、その心境に今も変化はない。自分の胸の中に先生がいらいしやるような思いが消えない。今夏の選手権大会が終わったら、そのご報告に墓前へと念じている。

(まんだい たかし／共同通信社)

本部活動報告

幹事長 安岡 範悦 (39 回生)

昨年の総会で池上会長は次の基本的な考え方を披瀝いたしました。

一つ目の「土佐高の存在意義、教育方針、運営方法などを改革の視点で検討する理事会直轄の会である百年委員会、先生方の研修を企画・実施し、他の学校見学や生徒の実態調査等を検討するTSL委員会を同窓会として全面的にサポートする。」

つきましては同窓会としてTSL委員会活動基金に一〇〇〇万円を拠出(学校、振興会も同額拠出)し教員の研修に貢献すると共に宮地貫一関東支部長、岡村 甫前会長などをはじめ同窓会のメンバーが委員として活躍され、二〇〇二年六月には百年委員会最終報告が提出され、理事会での承認を経て校内委員の方を中心に具体的改善案が検討されています。今後成果が期待されるところです。

二つ目は「同窓会の財務強化改善に取り組み同窓会を更に活性化する」であります。本件は毎年会計監査の方から改善策検討の必要性を指摘されておりました

現在同窓会総会を開催にあたり、高知県在住の卒業生約八五〇〇人の

方に同窓会総会のご案内状を差し上げると共に会報紙「向陽」をご送付させて頂いておりますがここ数年、総会に出席頂く同窓生は約一〇〇名となっております。

また、現在同窓会の収入の原資は新規高校卒業生からの入会金約三〇〇万円(一人一万円)でありますが支出面では前記総会案内に伴う費用(含む向陽)は約一六〇万円となっており、毎年必要な経費約二〇〇万円を勘案すれば単年度の収支では持ち出しとなっております。この実態を踏まえ改善策検討の指針とするため昨年、高知県在住の卒業生を対象にアンケートを実施いたしました。アンケート結果は別表のとおりですが、その際、

一、高知県在住の卒業生からの会費徴収協力依頼。

一、会報誌「向陽」のホームページへの掲載。

一、各種案内、会報誌、名簿等について同窓生の夫婦、親子に対する送付方法の検討。

一、各種案内に対するメールの活用。等について多くの方からご意見を

頂きました。会報誌「向陽」の希望者への送付、ホームページへの掲載等出来る事は本年度から実施していきたいと考えます。また現在各支部で会費を徴収されている実態をも踏まえ高知県在住の校友に会費納入をお願いできないかと検討をしておりますが、この件につきましては今後更にご意見を聞く中で対応したいと考えます。

三つ目は会員名簿データ管理の問題です本件は各支部からのご要望も強く懸案事項となっておりますが各支部の担当者にお集まりいただき、個人情報保護を前提とした管理、更

新方法を検討し一定の方向性の合意を得ました。名簿管理だけでなく有効活用できるようシステム構築中であります。

「変える勇氣、変えない冷静さ、その二つを見極める智慧」を出しあい更なる努力を致したいと考えています。同窓会諸兄弟の皆様のご指導ご協力をお願い致します。

2002年総会案内葉書に関するアンケート結果

案内葉書

	①従来通り 葉書で	②新聞等公共 手段で	③その他	小 計
2～18回	13	8	2	23
20回～	90	39	8	137
30回～	190	124	6	320
40回～	147	91	19	257
50回～	96	85	10	191
60回～	105	64	11	180
70回～	223	68	6	297
合 計	864	479	62	1405
	61.50%	34.10%	4.40%	

機関紙

	①従来通り	②希望者のみ	a 希望する	b 希望しない	③その他	小 計
2～18回	12	10	5	5	1	23
20回～	59	73	51	22	5	137
30回～	142	173	102	71	5	320
40回～	124	133	81	52	0	257
50回～	79	107	60	47	5	191
60回～	62	108	54	54	10	180
70回～	160	129	75	54	8	297
合 計	638	733	428	305	34	1405
	45.50%	52.10%			2.40%	

支部だより

関東支部

幹事長 市川直介（53回生）

本部の皆様、今日は。

平成十五年度の関東支部総会及び大懇親会は、六月七日オリピック記念青少年総合センターにおいて、二八〇名余の同窓生の参加を得て、盛大に催しました。母校からは、池上武雄校長先生をはじめ、今年四月より野球部監督に就任された高多先生、小村先生、松村先生が、本部からは、横田さん、西山さんが参加して頂きました。

高多先生が、「籠尾先生が関東支部総会で皆さんから激励されて、長い苦しいトンネルを抜け甲子園に出場した。私にも関東支部の皆さんの力を頂き、是非甲子園に出場したい」と挨拶をしたときは、われんばかりの激励の拍手が起こりました。

また、記念講演は、前防衛庁長官中谷元氏が「日本の安全保障について」と題して行いました。会場は、立見が出るほど盛況でした。高校時代から長官時代までを、エピソードを交えて話され、特に自衛隊の憲章の話については、領土・国を守るという意味を考えさせられました。大懇親会は、今年がよさこい五〇周年であることから、「よさこい」をテーマに、ガーナでのよさこいの紹介や高知と交流した関東在住の中学生による本格的

なよさこい踊り等で大いに盛り上がりました。来年は、六月五日（土）に開催しますので、ご都合がえ

ば、是非ご参加ください。

昨年より、70回生以降の若手同窓会を立ち上げました。昨年は旧満州鉄道總裁の別宅跡地の羽澤ガーデンで開催しました。庭とつながったとてもシヤレたレストランで、約一〇〇名の同窓生が集いました。今年は、十月四日（土）に予定しております。関東在住のご息がおられたら是非ご案内ください。

今後の関東支部の最大の課題は、新校舎の建築という大プロジェクトへの支援をどのように行なっていくか、ということです。池上校長を中心として、本部の皆さんや振興会とも連携をとり、是非早く軌道にのせたいものです。在校幹事等の学校の先生方、特に若い先生

方には、二〇年後の土佐校を思い描いて、当該プロジェクトを推進・成功させるために心血を注いで頂きたいと願っています。

今後とも、よろしくお願いいたします。



東海支部

事務局長 南 毅一 (37回生)

打倒・M徳義塾の密約

甲子園で「向陽の空：」はもちろん、市商の「ホウテイ(鵬程)万里：」も聞かんようになって十年は経過したと思う。ドモナランと思っている。

そんな折り、なんと市商と土佐の打倒・M徳義塾の密約があった。時に平成十五年五月二十四日(土)夕刻、場所は名古屋のとあるシティホテルの宴会場の一室。写真左が市商の柳井校長、右は土佐の池上校長。お互にガッチリと握手をしている。

実は両校同窓会の幹事が相計らって同ホテル、同日、同時刻、同フロア、同料理、同料金にて同窓会、校友会の総会を開催した。偶然、両校長が出席されていてエールの交換をしたというわけである。

「今夏は土佐が先に甲子園に出ます」と池上校長。

「イヤ／＼市商で決まりです」と柳井市商校長も負けていない。

その昔、土電の電車道をはさんで張り合った頃が「しょう」懐かしと思う。昨今は外来種のM徳義塾に侵略されて、サッパリ。

「どうも市商が大谷の方へ学校を移してから弱くなって、もとの棧橋の



方へ帰って来たらドウゾネ：」と変な意見でもナルホドと思うし、「土佐十四年周期説によれば、本年がそのチャンスである」と因果論を唱える者まで…。両校の同窓会は二ギヤカにグチの言い合い大会となった。いずれにせよだれもがM徳義塾だけでは敗けたくないという想いで一杯であった。

「アトは選手と監督にガンバってもらおう」で同窓会総会はお開き。見果てぬ夢を追いつつ「向陽の空：」や「ホウテイ(鵬程)万里：」を熱唱した。

その後、両校のエールの交換は名古屋の夜の街に明け方まで続いた。そして、疲れた。

関西支部

事務局長 原田和人 (56回生)

関西支部では今年の一月二十五日(土)、恒例の支部総会・懇親会を神戸のホテルオークラで開催致しました。当日は母校の池上校長をはじめ、同窓会本部・各支部から多数のご来賓を頂き、総勢一三〇余名の方々にご参加頂き、前年のザ・リッツカールトンホテルでの開催同様活気あふれる開催となりました。また、今回は当日飛び入り組み含め一六名もの学生の参加があったことで、会には盛り上がりしました。

さて、総会では川崎美栄子関西支部長よりご挨拶を頂いた後、平成十四年度の活動報告・会計報告があり、承認されました。続いて午後五時半より遠路高知よりご参加頂きました中澤節子先生の乾杯で懇親会が始まりました。午後七時半を過ぎたところで恒例の『よさこい鳴子おどり』が始まりました。これは高知から本格的な踊りの先生をお迎えしての毎年皆が楽しみにしている企画です。全員参加の踊りで会場は熱気の渦につつまれました。その後応援



最後にありますが、事務局は今年の二月の幹事会で長年にわたり関西支部の事務局を一手に引受けてこられました中山事務局長(46回)より56回の原田へ引継ぎをさせて頂きました。中山事務局長の功績が大かっただけに、プレッシャーもあります。皆様のご指導ご鞭撻を賜りながら、精進していきたいと思えます。宜しくお願い申し上げます。

歌を歌い、北村旦(元)関西支部長の挨拶を頂きました。開催予定時間の二時間は、盛り上がりの中あつという間に過ぎてしまい、三〇分延長の後、午後八時に閉会しました。

来年二〇〇四年度の関西支部総会・懇親会については、昨年は大阪、今年は神戸で開催して参りましたので「三都物語」の最後を締めくくべく京都での開催を予定(一月二十四日(土)午後五時、京都ホテルオークラ)しております。京都の観光を兼ね、高知ならびに全国の同窓生の皆さんのご参加も心よりお待ちしております。

広島支部

中山和敏（40回生）

ひろしま小話「梅太郎のこと」

数年前のある日、関東にお住まいの先輩からお問合せを頂きました。

先輩「梅太郎って、誰のことですか？」

中山「坂本龍馬のことです。才谷梅太郎が龍馬の変名です。密書などで使っていた名前らしいです。」

「才谷」は、坂本龍馬の本家が長岡郡才谷村から高知に出て商いを始め、その屋号を「才谷屋」としたことから、龍馬が使ったとのことでした。「梅太郎」は、坂本龍馬が尊敬した勝海舟の三男・梅太郎（一八六四年十二月六日生）の名前をいただいたとのことでした。もともと、龍馬が才谷梅太郎を名乗りだしたのは、一八六七年二月頃からであり、その年の十一月十五日に暗殺されていますから、わずか十ヶ月の間しか使われなかったことになります。

私たち広島支部のメンバーが集まる店が「梅太郎」というお店です。広島市の中心部から少し西よりにあつて、十人ほどしか入れない小さなお店です。経営者の藤井和子さんが一人で切り盛りしている気さくなお

店です。藤井さんは満州からの引揚者ですが、坂本龍馬のことが大好きで自分のお店の名前も「梅太郎」とされ、店の中には龍馬の大きな写真が貼られています。焼酎「竜馬」ももちろんあります。一人で来られたお客さんも、いいタイミングで藤井さんが店のお客さんに紹介され、すぐに皆の会話に参加できる、という雰囲気のお店です。

広島支部総会の後の二次会では、この「梅太郎」コースとホテルの「カラオケ」コースとがありまして、それぞれ賑やかに楽しくすごすことにしております。

さて、広島支部総会は毎年、同窓生のご講演をお願いしております。昨年は37回生の浜田英生様（ホテルニュー神田・代表取締役）の楽しくて有意義なご講演をいただきました。今年は、24回生の山中和正様をお招きして十月二十五日（土）に広島県民文化センターで開催いたします。他支部の同窓生もまた、同窓生のご家族も参加OKです。

楽しくて和やかな広島支部総会にご参加の後、「梅太郎」にちよつと寄ってみませんか。

香川支部

支部長 土田 哲也（32回生）

香川支部からご挨拶申し上げます。支部の活動としては、四月十六日に支部役員会を開いてお互いの情報交換と本年度の総会準備の話し合いをしました。

また、先日七月五日にサンポートの全日空クレメントホテルで、母校・本部・先発の支部からのご来賓を含む三十三名が出席して第八回支部総会を盛大（？）行いました。今年は紅一点の小島さん（広島支部幹事）のほかは男性ばかりでした。週刊朝日の特集記事や各地の支部会報の紹介と、母校、本部・各支部の様子を聞かせていただきました。

総会の途中からいつものように懇親会になっていました。しばし歓談に花を咲かせました。校歌斉唱のあと近くで二次会をしてお開きとなりました。盛り上げていただいたご来賓の皆様に改めて御礼申し上げます。これ以上報告することがありませんので、余談で失礼します。今注目の香川の話題といえは、うどんです。確かに香川に長く住んでいると、うどんを沢山食べていると実感します。消費が伸びるのはいいことです。が、最近のテレビでは、自分でうどん

んを打つ風景や、セルフサービスで食べる様子が紹介されますが、中には店が狭くて薄汚い、近くの畑から葱を自分で採ってきて刻むという場面が出されたりします。あれは少数の例です。店構えも雰囲気もいい所はいっぱいありますから誤解しないでください。

次は、癒しの時代にあつて八十八ヶ所参りでしょうか。県外からの転勤者が精力的に回っているのに比べ地元の間は少ないようです。香川は八十八番に近い終わりの方の札所があるため、始めるのに気乗りしにくいかもしれません。SARSで有名になった小豆島には島内に鳥巡りの札所があります。こちらも県外の参拝者が多いようです。

もう一つ付け加えるとすれば、この春未開通だった市内部分が開通して高速自動車道がつながって四つの県庁所在市が結ばれたことです。しかし、一般道路では、運転者のマナーの悪さが有名です。恥はあえて詳しく述べませんので、自動車で来られる場合は気をつけてください。とりとめのない話で失礼します。

振興会の現況と活動

会長 国見 直樹

幾多の人材を輩出し続ける我が土佐中・高等学校は、創立八〇余年を過ぎ、創立一〇〇周年を見据えた動きが活発になってきました。毎年盛夏に行われる同窓会総会に配られる同窓会会報の「向陽」に今年も振興会からの投稿を依頼された事に、大いに喜びと感謝を込めて現況を述べさせていただきます。

私が振興会会長に就任したのは約三年前、土佐校八〇周年を迎える年度でした。前校長であられた森田校長先生の在任も一〇年を超え、忍び寄る少子化の嵐の中、学校の選別も始まり、やや土佐校の将来を憂える頃であったと思います。会長就任をした同時期に八〇周年記念事業等の検討がなされ、その結果将来を見据えた一〇〇年委員会が立ち上げられたことは、現在にとって画期的な事であったと思います。一〇〇年委員会での忌憚のない議論の集約があつて、また昨年度の池上校長先生のご就任により、土佐校がめざましく変化しつつあるのを日々感じる今日この頃です。

土佐校にはPTAは存在いたしません。皆様「ええ、そうなのか」と思われるかも知れませんが、学校、同窓会、振興会は三本柱言われているのにも係らず、以前には振興会役員と学校の先生方が話し合う場がありませんでした。(生徒の直接の保護者にはクラスや学年の面談会があり、其れなりのコミュニケーションは取れていました。)さてどんな方式であつたかと申しますと、振興会役員はまず校長先生に面談を求め、校長先生を通して先生方の意見を聞き、また校長先生より返事を頂くと言う、直に先生方と話しあう場がありませんでした。

振興会会長となり前任者より受け継いだ使命は土佐校にPTAを作ると言う事でした。ところが池上校長先生となり、PとTの話し合いの場を求めたところ、二つ返事で定期的な会合が設定されたのです。平成十五年一月より連絡協議会なるものが発足し、以後一学期に一回位の割合で振興会役員と、校長先生、教頭先生、教務部、生徒部、広報部等八部門の先生方と話す場が持てるようになりました。時間になると一時間半位のことですが、学校内で起きていること、学校行事、最近の傾向的なこと、我々も支部から上がってきた

要望などを率直に話させていただき、意思がまとめられるようになって来ました。具体的には、携帯電話の取り扱い、朝の一〇分間読書を始めた事、教員の週四〇時間労働をクリアする為の月曜日半日授業等、この様な単純な話し合いの場が、お互いの相互理解を深め、問題を解消するのに如何に重大かが認識された事です。今は池上校長先生に学校運営を総てお任せし、何も不満はありません。共に歩む振興会活動を今後とも地道におこなって行く事が土佐校の今後の繁栄をもたらす道と考えています。

振興会役員名簿 (平成十五年七月)

会長	国見 直樹
副会長 (広報)	杉本 雄一
副会長 (進学)	山本 志雄
副会長 (総務)	北村恵美子
監事	毛山 章
監事	徳永 俊一
評議員	竹村 晴光
評議員	田中佳代子
評議員	中澤 陽一
評議員	西山 彰一
評議員	南 範子
事務局	千頭 裕

同窓会会報紙「向陽」

編集後記

長女が幼稚園に通う初日のことである。園長先生が門の前で出迎えてくれた。先生は「なごみちゃん(長女の名)、おめめをみてごあいさつしましょうね。おはようございます」と初めてのあいさつをしてくれた。私も長女も家庭以外での教育というものに初めて触れた日である。私はショックを受けた。子供が一番初めに習うことが、私はできているだろうか、と。相手の目を見て挨拶することは、人間にとって一番基本的な習慣ではないだろうか。ところが、私も含めてできていない大人が多い。基本ができていないのに応用ができるはずがない。それからどんな場合でも心をこめて「おめめを見てごあいさつ」をするようにしている。

生活の基本的習慣は英語や数学よりも人生においてきつと重要なことだと思う。土佐高校の卒業生も、学生も「おめめをみて、ごあいさつ」のできる仲間であってほしい。

